

## 7. 自動車審査部における審査の概要について

自動車審査部長 佐竹 克也

### 1. はじめに

自動車を購入し使用する際は、その自動車が安全面や環境面での基準に合致していることを、運輸支局等で行われる検査により確認することになっているが、この検査を効率的に行うため、自動車及び自動車装置(以下「自動車等」という。)について、安全・環境基準に合致しているか否かを生産段階で確認する「型式指定制度」が設けられている。

自動車審査部(以下「審査部」という。)は、型式指定制度の一環として、自動車等について、安全・環境基準への適合性や燃料消費率の確認を、公正な立場で行うわが国唯一の機関として、基準に適合しない自動車が市場に出回ることを防止するという目的の下、厳正に実施している。

一方、昨今、燃料電池自動車や自動走行システムなどの次世代の自動車やインフラの取り組みがなされているが、審査部の業務実施に当たっては、技術開発による産業振興が円滑に図られるよう、また、商品としての自動車の国際的な流通を阻害しないように合理的に取り組むことも重要である。

ここでは、この1年の動きを踏まえた審査部の取り組みを概説する。

### 2. 自動車審査部の業務実績

平成25年度の自動車等の審査型式数は、自動車にあっては2701型式、自動車装置にあっては338型式である(図1参照)。

また、メーカーの設計・開発をより円滑に進めるため、審査業務に先立ち試験等を行う先行受託試験については、平成25年度は147件(対前年度63件増)の受託があり、積極的な利用が進んでいる。

さらに、国連協定規則に基づく、日本政府による装置型式指定の認定証(E43)発行については、平成25年度は66件(対前年度45件増)と、積極的な利用が進んでいる。

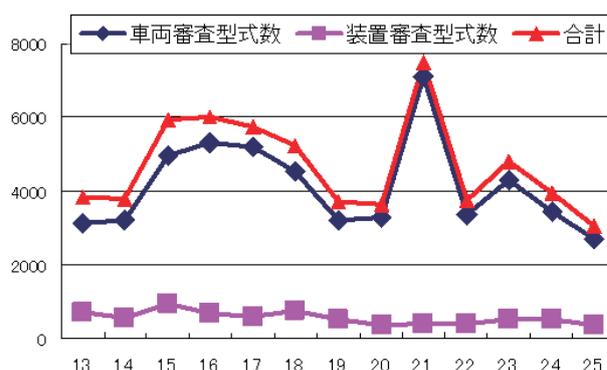


図1 審査型式数の推移

### 3. 昨今のトピックス

#### 3. 1. 燃料電池自動車

地球温暖化が年々深刻化する中で、次世代自動車として、水素ガスを燃料とする燃料電池自動車が注目されており、我が国においても、実用化に向けた開発が進められている。

水素ガスを燃料とする燃料電池自動車に係る基準については、平成25年6月の国連の自動車基準調和世界フォーラム(WP29)第160回会合において、「水素及び燃料電池自動車に関する世界統一技術基準(HFCV-GTR)」が採択され、平成26年2月には、わが国の自動車安全・環境基準に、衝突試験後の車室内の水素濃度やガス容器の車両への固定状態等の要件が追加された。

審査部では、基準が定められたことを受け、法規の詳細な解釈及び試験方法について、マニュアルの作成を行うなど基準適合性試験を円滑に行うための調整を進めており、こうした取り組みを通じて、燃料電池自動車の実用化を推進している。

#### 3. 2. 燃費性能の改善

燃料資源の有効活用や地球温暖化の防止の観点から、ガソリンや軽油を燃料とする自動車の燃費性能の改善は重要な取り組みである。

そのため、審査部では、審査業務の一環として燃料消費率の測定を行っており、その結果については、

国土交通省から広く公表されるとともに、エコカー減税(自動車取得税・自動車重量税)やグリーン化特例(自動車税)の取扱いにも活用されている。

特に、近年は、ユーザーの燃費に対する関心の高まりもあり、燃費の改善が進んでいる(図2参照)。

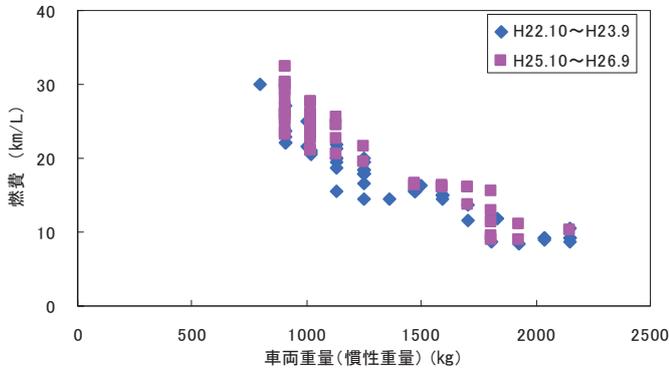


図2 ガソリン乗用車の燃費改善状況

このような燃費を取り巻く状況を踏まえ、燃料消費率の測定に当たっては、厳正かつ公正な実施が何よりも重要であり、こうした取り組みを通じて、燃費性能の高い自動車の普及を推進する。

### 3. 3. 車線逸脱警報装置

次世代インフラとして、自動運転システムや安全運転支援装置が注目されているが、これらに関連して、昨今審査を開始した装置として「車線逸脱警報装置」がある。

この装置は、車線を正確に検知し、逸脱しそうな場合に、音やランプによりドライバーに警報するもので、道路端のガードレールや防音壁への衝突防止に非常に有用なものであり、大型トラック・バスを対象に平成27年8月の義務付けが予定されている。審査部では、この装置に関する試験を順次実施しているところである(図3参照)。



図3 車線逸脱警報装置の試験

安全運転を支援する装置としては、その他に「被害軽減ブレーキ」などがあるが、こうした装置の着実

な普及が、さらに高度な次世代インフラの実用化に寄与することを期待している。

## 4. まとめ

近年の複雑で高度な新技術の導入、燃料電池自動車等の革新的技術の普及、さらに、安全・環境基準の強化に伴い、審査に必要となる知識・技術レベルが高まっている。

また、グローバル化が進展する国際自動車市場の中で、自動車の基準調和、IWVTA(国際的な車両型式認証制度)等相互認証など、自動車審査業務の国際化の必要性も益々高まっている。

このような中で、審査部は、信頼性の高い審査制度の運用と確実な業務の実施により、自動車の安全確保、環境保全等を実現しつつ、自動車産業の成長にも十分貢献できるよう、今後とも、適切な審査体制の保持・整備を通じて、厳正な審査のなかで、合理性・効率性を追求していく所存である。